



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市入船町1番地  
電話(53)3033-4  
編集兼 杉本一男  
発行 半年間1,800円 送料共  
振替口座番号  
労働金庫大牟田支店  
825-000569

### 年末・年始の休日

12月31日(日)	普通休日
1月1日(月)	特殊休日
2日(火)	特殊休日
3日(水)	特殊休日
4日(木)	特定休日
5日(金)	特定休日
6日(土)	振替休日

## 一鉱体制下、初の生産会議

### 三池鉱、八〇卸を中心に採掘計画

十月二日から第一鉱を廃止して第二鉱(旧有明鉱)に統合、『三池鉱』として一鉱体制になりましたが、下期がすでに半ばになる時期にようやく三池鉱の生産会議が開かれました。出炭計画・人員計画は十月に開かれた中央生産会議での計画と同様(計画表などは十月十五日付で既報)。会議では、計画説明と組合側の質問への回答、質疑応答が行われました。

#### 質問と回答(要旨)

- 三池鉱の中・長期的な採掘計画と人員計画について。
  - △ 三井建設には撤退をお願いし、現在坑内関係の下請け員は二一一名で現状を維持したい。
  - △ 中期的には八〇卸部が中心となる。第二上層西八〇添卸西〇片から三片にマンベットの設置を検討している。
  - △ 現在、密閉と観測の強化に努めている。今後は三角炭、目抜を強化したい。
  - 下請け労働者の今後の人員計画について。
    - △ 坑内温度対策について。
- 掘進切羽の粉塵対策について。
  - △ 掘進切羽で出水箇所が多いので、資材不足がよいよう準備したい。
- 掘進切羽の粉塵対策について。
  - △ 現在、旧第一鉱に三三〇立方メートル集塵機が二台あり、新たに四五〇立方メートル四台(うち石炭技研委託一台)のエンジンガード型(イギリス製)小型集塵機を導入し、粉塵対策を強化したい。
- 西八〇卸東二片の材料運搬施設の改善を検討すること。
  - △ 現場と打ち合わせて検討する。
- 旧第一鉱第一番関係の繰込時間再検討すること。
  - △ 坑外仮手当所の充実について。



### 消えた四ッ山社宅

ネイブルランド計画によって、岬の貯炭が旧四山社宅に移される(上は現在、下は9月のもの)



石炭が貴重な国内のエネルギー資源であることは周知の事実である。石炭の国内需要量が一億トンを超え、そのわずかに割程度に国内炭の供給を縮減するという第八次政策は、『エネルギー革命論』を基調にして炭鉱を水没させてきた、わが国のエネルギー政策の延長線上にあり、その政策の愚かしさは世界でも類をみないものとなっている。

## 激動の一九九〇年 第九次策への挑戦

この背景には、わが国の対米経常収支の大幅な黒字削減を目的に、「市場開放」を進めるとした「前川レポート」(中曽根元首相の私的諮問機関の報告書)の約束があり、その実践として石炭産業の切り捨てが行われているのである。その結果として、各炭鉱の閉山・縮小が進み、炭鉱労働者と産炭地は耐え難い犠牲を強いられている。来年度は第八次政策四年目を迎えるが、政策目標をたてに閉山・縮小合理化はますます加速し、原料炭の引き取りを義務付け、

## 解雇を正当化

### 久保常務の主尋問終わる

三池不当解雇訴訟第七回口頭弁論が十一月二十一日午後一時三十分から福岡地裁で開かれ、前回は続いて不当解雇を履行した当事者(被告会社側・久保(三井石炭常務取締役)に対する主尋問が行われ、

今回の主尋問では昭和六十二年以降の石炭政策、②合理化の実施、③経営状況、④企業努力、⑤合理化による諸取り扱い、⑥組合との交渉、⑦基準解雇などについてかなり執拗に尋問された。

二回の主尋問は、全体として「石炭政策が大きく転換し、経営が著しく悪化した」「需要に見合う生産となり、生産量を縮減、その結果余剰人員を生じた」「合理化をしなければ会社の存続が危ない」「高齢者の解雇は、定年までの期間が短く、退職金も高い。体力、大型化への順応、作業の多様化などから当然」「退職に当たっては優遇した」などと、一貫して「政策だからやむを得ない」と、解雇を正当化する内容でした。

次回公判は来年三月七日。原告側の反対尋問が行われます。

## またも低額、下期期末手当

炭労の下期期末手当闘争は、他産業が前期比一〇〇台の上昇率、平均七十万円を突破するという情勢の中で、要求額五十五万円(前期同様)で十一月十四日から集合交渉に入りましたが、石炭各社は「一三〇の生産縮小により経営が危機的な状況にある」として前期並みの低額を回答。最終的には二十一日の二十四時間ストライキを背景に若干の引き上げで、三菱・期末手当 三二一、〇〇〇円

### 配分交渉結果

協力一時金	一五、〇〇〇円
計	三二六、〇〇〇円
組合貸付金	二五、〇〇〇円
所得給	〇・〇七六五五
	(三・八・六二%)

### 港務所も妥結

三池港務所の下期期末手当交渉は十一月二十日から交渉に入り、十二日、要求額五十五万円に対し、本人給(一律)一五三、九〇二円で四十八万八千円で妥結しました。(詳細は省略)

## 地底

師走も半ばを過ぎた。いよいよ一九九〇年代を迎える。劇的な展開は今夏の参院選の結果であり、東ヨーロッパの動き

▼「師走も半ばを過ぎた。いよいよ一九九〇年代を迎える。劇的な展開は今夏の参院選の結果であり、東ヨーロッパの動き」

▼「まさか世論が政治を動かす典型となった。消費税廃止法案可決。衆議院で審議未了・廃案となったも廃止への「扉」を半分開けたことは確か。一月下旬再開の通常国会冒頭各党の代表質問終了後に解散、二月総選挙へ突入となる。浮足だっているのは自民党だ。革新をうらめく逆転で「扉」を、全開」ときたい。

▼「自民党の消費税「見直し案」が出た。新聞各紙は「これが根本見直しか」「理念がない」と手厳しく批判したが、特異なのは産経。いわく「無責任で意図的な消費税批判運動」愚案政治に負けた」と。「愚案」という産経が目指す政治的意図は明白。それにしてもこの見直し案は実施不可能な「幻」であり、廃止が道理というもの。

▼「好調といわれる景気上昇は三年目に入り、労働市場は労働力不足。雇用情勢は好転。しかし大企業の正社員は一〇〇以上も減った。そこに資本の経営戦略「合理化政策」があり、新たな失業者の発生、貧困、格差を生んでいる。不安定雇用の実態の中で見え見えの労働者に、新しいナショナルセンタールはどう「陽」を当てるのか。

▼「今年には三池炭鉱払い下げより百年目を迎え、さらにつきの百年に向けて飛躍すべく第一歩を踏み出していく重要な時期」「社内時報」三五〇号。この企業の百年は、農民・残酷の歴史」と重なる。「石炭の冬」「経済大國の捨て石」を越え、新たな「飛躍」とは何か。そして、いま、安保・三池から三十年を迎える。